

横浜市は歴史的建物「赤レンガ倉庫」の保存活用に際して、建物の商業（1号館）および文化（2号館）の用途への改修を決定し、国用地・港湾緑地の前提のもとに、2棟間広場の活用のあり方の検討を「門司港レトロ地区」における成功実績を有することから、アブルが選定された。諸条件の整理、段差処理方法の検討を経て、積極的なイベント利用を図るために、極力シンプルな構成とすることで、歴史的遺構に配慮することも含め、関係機関、市都市デザイン室、文化庁専門家との協議を経て、基本計画案を作成した。

実施設計は建築家・新居千秋氏に引き継がれ1号・2号倉庫の保存活用改修と一体的に進められ、2002年に完成を見た。今も積極的なイベント等が開催されている。



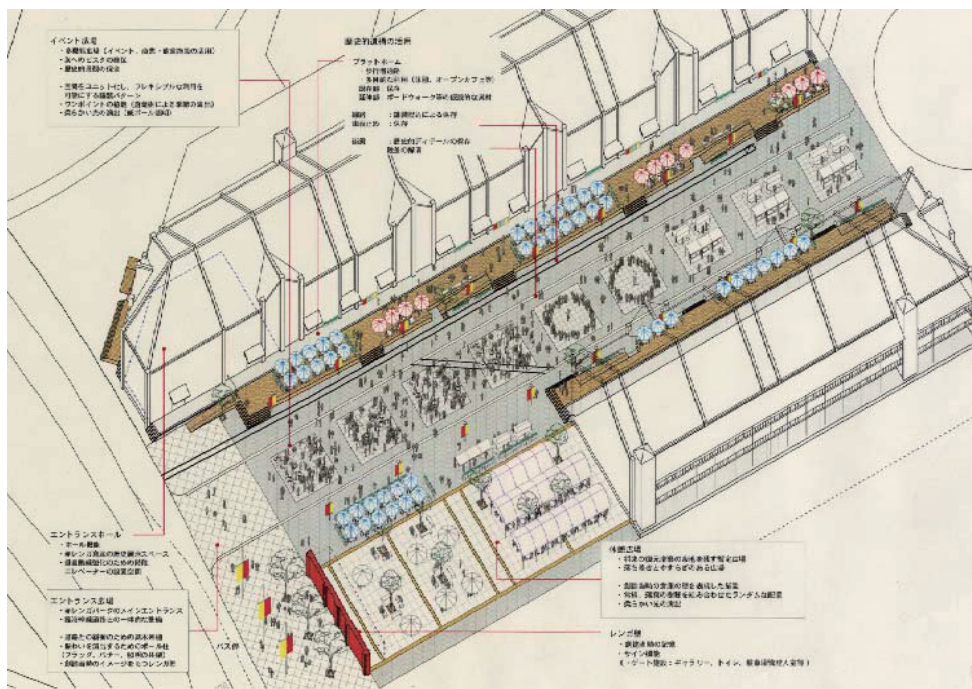
赤レンガ倉庫広場の位置



完成した赤レンガ2棟間広場から大さん橋、ベイブリッジ方面を望む



赤レンガ倉庫広場のイベント利用イメージスケッチ



赤レンガ倉庫広場のイベント利用の提案（アクソノメトリック図）

経緯 赤レンガ倉庫活用検討調査（2棟間広場整備計画等）'99.2～3

担当：中野、清水、星野、江口、天野